

研究テーマ	<p style="text-align: center;">[自分らしさを表現する造形教育を考える]</p> <p style="text-align: center;">自分の思いや感動を創意工夫しながら表現する力を育てる美術科学習指導 —中学校第 1 学年「静物画を楽しもう」の実践を通して—</p>
-------	---

牛久市立牛久第三中学校 教諭 山本 理恵子

## 1 研究テーマについて

美術科の総括的な目標は、中学校学習指導要領解説美術編（平成 20 年 9 月文部科学省、以下解説と記す）にも示されているように「豊かな情操を養う」ことであり、一般的にも情操教育と言われている。情操について解説では「美術科では、美しいものやよりよいものにあこがれ、それを求め続けようとする豊かな心の働きに重点を置いている。」と示されている。情操を豊かに育成していくためには、美術の授業の中で、よさや美しさを豊かに感じ取り、よりよいものを目指して自分で考え発想し、工夫しながら描いたりつくったりするための能力を育成することが重要となる。

本校生徒は、週に一度の美術の授業を楽しみにしており授業中も熱心に制作に取り組む生徒が多い。しかし、50 分間の授業の中で、やっと自分の制作の方向性が見えてきた頃に時間が終わってしまい残念な思いをする生徒も少なくはない。自分の思いや感動が描けたと実感したときには、たった 1 枚の花びらしか着色できなくても、すごく満足した表情である。自分の思いを表現したいという、よりよいものを求めようとする豊かな心の表れともいえる。

そこで、静物画制作過程において、客観的に見えるように描く力だけを育てるのではなく、「自分の目と心で深く観察し、感じた色などを素直に表現すること」に重点を置き、水彩表現のトレーニングを位置づけ、自分の思いや感動を創意工夫しながら表現する力を育てることをねらいとした。また、中学生の静物画の指導においては、モチーフの配置と水彩による質感の表し方について、生徒が自ら気づき、自ら課題を設定していく探究型の授業を構築することが新しい学習指導要領に述べられている。

よさや美しさを感じ取り自ら主題を見つけ出す探求的な活動（発想や構想）、自分の思いを表現するための技能を身に付ける活動（創造的な技能）、互いのよさを取り入れる活動（観賞）により、3 つの力がバランスよく育つ授業づくりを目指し、描きたい、作りたいという気持ちをもって能動的に創作活動する生徒の育成を図りたいと考えた。

## 2 実践事例

### (1) 題材名 静物画を楽しもう

### (2) 題材の目標

静物画に関心をもち、作品の構想を練る中で自己の主題を見つけ出し、水彩絵の具の基本的な技法を習得し、自分らしさを大切にしながら、物の材質感や立体感等を色彩豊かに創造的に表現するとともに、自己の価値意識をもって作品の表現の工夫や個性などを感じ取り味わう。

### (3) 題材について

#### ① 題材観

自由にモチーフを選び並べることができる静物画のよさを感じながら、絵を描く楽しさを味わわせたい。モチーフについては、立体感、質感など様々な表現ができるように、円柱形、球体、ガラス、布等ある程度限定する。本題材に入る前段階として、ビンの鉛筆デッサンを通して、「描くこと」以前に物を「見ること」の重要性を体験させた上で、本題材の静物画の下描きに取り組

ませる。モチーフを見つめ描くことを通して、自己のイメージを大切にしながら、対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や、形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てていく題材である。

## ② 指導観

本学級の生徒は、美術の授業を楽しみにしており授業中も教師や友達にアドバイスを求めたりしながら積極的に制作に取り組んでいる。発達の段階による絵画の特徴によると、「13歳では、知的能力の発達に伴い、観察力、判断力が高まり、合理的・客観的な表現をしようとする。正確な再現的表現を行おうとする傾向が見られ、絵を自由な発想で描くことが減少していく。」といわれている。これを踏まえ、指導上の留意点を「感じた色などを自分の表したい色彩で素直に表現すること」「見た感覚から触った感覚が伝わるように水彩表現を行うこと」に重点を置きたい。

## (4) 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・静物画に関心をもち、意欲的に制作しようとする。主体的にモチーフを選び並べ、作品の主題を見つけ出すためにいろいろな表現技法を試している。	・自己のイメージを広げ構想を練りながら、作品の主題を見つけ出し、静物画を描いている。	・水彩絵の具の基本的な技法を習得し、自分らしさを大切にしながら、物の材質感や立体感等を色彩豊かに創造的に表現している。	・主体的に自他の作品の表現の工夫や個性などを感じ取り味わい、自分の価値意識をもって鑑賞している。

## (5) 指導と評価の計画 (16時間扱い)

※○印は時数

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次③	・スケッチ・デッサンの違いを知る。円柱形のガラスの瓶を鉛筆デッサンし、目の高さによる形の変化を捉える。	・目の高さによる形の変化を捉え表している。 ・鉛筆の使い方を工夫して物体の形、質感を表現している。 [技]【制作の様子・作品】
第2次①	・静物画の作品を鑑賞し、グループで相談しながら、静物画にしたいモチーフを選び並べることで、作品の構想を練り主題を見つけ出す。	・主体的にモチーフを選んだり、構想を練ったりしながら、作品の物語性や主題を考えている。 [想]【活動の様子】
第3次③	・静物画の下描きをする。描きたい場所を探しながら、自己の作品の主題を基にアイデアスケッチをする。	・主題を基に、主役と脇役を考えながら、物体の前後の遠近や物の形を捉え、構図を描いている。 [想]【活動の様子・下絵】
第4次②	・水彩表現トレーニング「その1」 「混色・重色・にじみ・ぼかし」などの水彩絵の具のいろいろな表現を楽しみながら、静物画の作品の主題を見つけ出す。自分色で着色する。(本時) ・水彩表現トレーニング「その2」 りんごを透明、不透明水彩風に描く。	・自分のイメージに向かって、「混色・重色」、水加減を工夫しながら創造的に表現している。どんな感じにしたいかを言葉でも表している。 [想] [技]【活動の様子・作品】 ・「混色・重色」、水加減を工夫しながら、筆の方向性による立体感や質感を創造的に表現している。 [想] [技]【活動の様子・作品】
第5次⑥	・静物画を着色する。水彩表現トレーニングを生かしながら、主題に向かって制作をする。	・主題のイメージに向かって、「混色・重色」の技術を生かして創意工夫しながら表現している。 [想] [技]【制作の様子・作品】

第6 次①	・できあがった静物画の自己評価と鑑賞会をする。作品のタイトルをつける。	・主体的に自他の作品の表現の工夫や個性などを 感じ取り味わっている。 <b>観</b> 【学習シート】
----------	-------------------------------------	--

(6) 本時の学習

- ① 目 標 自己のイメージに向かって、水彩絵の具の「混色、重色」の技法を生かし、多彩な色を創り出し、創造的に表現することができる。
- ② 準備・資料 水彩画参考作品(静物画), 画用紙に印刷した水彩トレーニング兼ワークシート, 振り返りシート
- ③ 展 開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価 ○発問															
<p>1 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「混色、重色」などを生かして、魅力的な自分色をたくさん創り出そう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考作品を鑑賞しながら、混色、重色、にじみ、ぼかし等の水彩画の技法について復習する。</li> </ul> <p>2 制作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやイメージを色彩で表現する活動</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「感じ」を表す言葉を升目を書く。</li> <li>② イメージする色彩で升目を着色する。</li> <li>③ 制作の途中で友達の作品を鑑賞する。</li> <li>④ できた色彩の説明を書く。</li> </ol> <p>「画用紙に印刷したワークシート」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【水彩表現トレーニング】</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">感じ</td> <td style="text-align: center;">感</td> <td style="text-align: center;">感じ</td> <td style="text-align: center;">感</td> <td style="text-align: center;">感じ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">感じ</td> <td style="text-align: center;">感</td> <td style="text-align: center;">感じ</td> <td style="text-align: center;">感</td> <td style="text-align: center;">感じ</td> </tr> </table> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>☆作品のテーマを決めよう→どんな絵にしたいかな？</p> <p>☆そのためにどのように着色したらよいか？</p> </div>						感じ	感	感じ	感	感じ	感じ	感	感じ	感	感じ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・描き方の違った静物画の作品を何点か見せる。</li> <li>○これらの作品からどんな印象を受けましたか。どんな感じがしますか。</li> <li>・「混色、重色」等の技法を生かした作品のよさや美しさを味わわせる。</li> <li>・同じものが描かれていてもイメージが全然違うことに気付かせる。</li> <li>○水彩画には「混色、重色」「にじみ、ぼかし」などの表現方法があって、いろいろなイメージを表わせることがわかりました。「混色」はパレット上で色を混ぜることです。「重色」は、画面上で乾いた色の上から違う色を重ねる技法です。自分は、どんな感じの作品にしたいですか。</li> <li>・水彩絵の具のいろいろな表現方法で自分のテーマに迫っていくのだということを確認する。</li> <li>○今日は、思いやイメージを絵の具で表わすトレーニングをします。どんな感じの作品にしたいか、まず思いつくまま言葉で表してみましょう。</li> <li>・「感じ」を表す言葉を考える中で、自己の主題に迫らせる。その際、例をあげ考えやすくする。(例) 太陽のもとで元気に咲いている花の感じ等・・・</li> <li>○思い浮かんだ「感じ」が出るようにイメージに合う色彩で着色しましょう。「混色、重色」「にじみ、ぼかし」などを生かしましょう。</li> <li>・混色するときには、明るい色(弱い色)に暗い色(強い色)を少しずつ加えていくようにする。</li> <li>・水彩画の基礎的な技能を養いつつ、感じた色などを自分の表したい色彩で素直に表現することを楽しみながら創造性を育成する。</li> <li>・実際のモチーフの色を再現するのではなく、思いやイメージを色彩で表現する活動となるように助言する。</li> </ul>
感じ	感	感じ	感	感じ												
感じ	感	感じ	感	感じ												

3 本時の学習のまとめをする。

- ・友達の作品を鑑賞し、どんなイメージで描いたのかを伝え合い、感想を述べ合う。
- ・振り返りシートに達成したことと課題を記入する。

**想** 思いやイメージを膨らませ、重色や混色を工夫し表現している。(作品、観察)

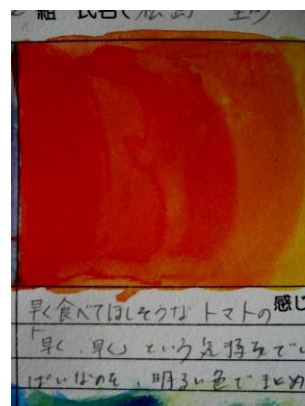
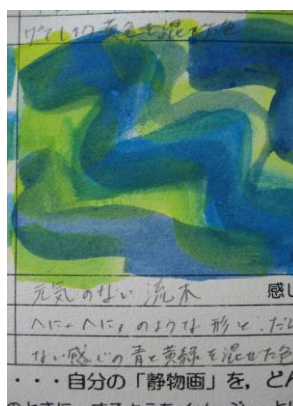
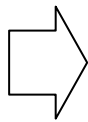
- ・どんな感じの作品にしたいか会話をしたり混色重色、にじみなどを教師が実演したりして、表現の糸口とする。
- ・友達の作品の工夫している点やよさについて話し合わせることで自分のこれからの表現や学習の手掛かりとする。
- ・主体的に表現の工夫や個性などを感じ取り味わえるようにする。次の静物画着色への創作意欲を高める。

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 水彩表現のトレーニングでは、自分の思いや感動を表すための表現方法を発見し、自己の主題を見いだすことができた。また自分の思いや感動を意識しながら制作することができた。
- ② 「モチーフの色そっくりに描くことではなく、モチーフの色から出発して自分色を発見することが大切」と示すことで、こんなふうに描きたい！という思いが生まれ、主体的に自分なりの色彩や表現方法を創り出すようになった。
- ④ 自分の作品をどんな感じにしたいかを言葉で表す活動では、自己の主題、思いを大切にしたりした色彩、着色方法を工夫する点で有効であった。
- ⑤ 自分色を作ることは楽しいと感じる生徒がほとんどであり、自己の表現を肯定的に受け止めることができた。

本時の活動「水彩表現トレーニング」



制作風景



できあがった作品「晴れた日」

## (2) 課題

静物画制作を終え、「絵を描くのは、やっぱり難しい」という感想をもつ生徒もいた。主体的に創造活動に関われるように、感覚を十分に働かせながら自分の主題を見いだせる活動を位置づけていきたい。

文部科学省教科調査官の奥村高明氏は、著書「子どもの絵の見方」の中で「どうしても描きたい。だから難しくても何とか実現しようとする。その過程で様々な能力が発揮され、新しい知恵を身につける。絵を描くことを通して育つ。その第一歩は描きたいことを子ども自身が選んだことである」「子どもは素直に先生の言うことに従ってくれる。それによって聞こえなくなる子どもの内なる声があるのかもしれない」と述べている。本研究を通して、「何のために絵を描くのか。」それは上手な絵を描くためでなく、子どもの力を伸ばすためであることを自分自身に問い直すことができた。

子どもが直感的に感じた思いを大切にしながら感覚を十分に働かす活動を位置づけ、主体的に題材に関わる生徒を育成することの大切さを学ぶことができた。これからも、子どもの作品、活動を謙虚に見つめ、内なる声を大切に拾って丁寧に返していきたい。

### 〈主な参考文献・資料〉

- ・文部科学省「中学校学習指導要領解説美術編」（平成 20 年 9 月）
- ・文部科学省教科調査官 奥村高明著「子どもの絵の見方 子どもの世界を鑑賞するまなざし」（平成 22 年 4 月）
- ・福本謹一，水島尚喜編著「中学校新学習指導要領の展開 美術編」（平成 21 年 4 月）



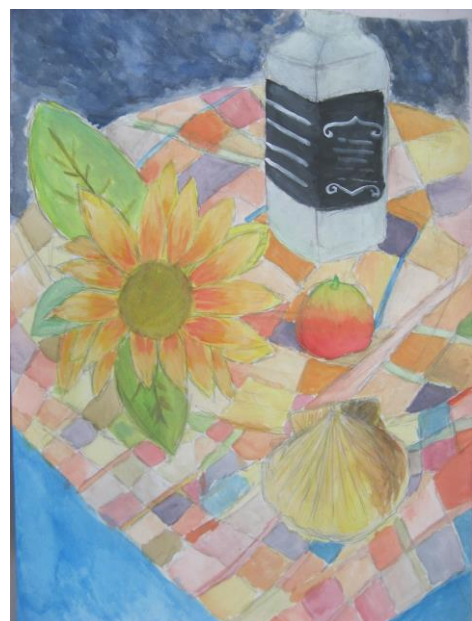
「日曜日」休みの日は嬉しい。草原が広がっている感じにした。



「森の贈り物」いろいろな物の質感を描くのが楽しかった。



「雪の冬のなつかしさ」発想が大切とわかった。



「ようこそお客様」カラフルにして賑やかな感じにした。